



九州支部「第26回日本生物工学会九州支部長崎大会」報告

第26回日本生物工学会九州支部長崎大会を2019年12月7日（土）、長崎大学水産学部にて開催いたしました。長崎県での開催は、1999年度、2007年度に続いて3回目になります。大会参加者数は117名（一般56名、学生61名）に達し、講演数は69題（一般講演48題、学生賞応募講演21題）を数え、晴天にも恵まれて大盛会でした。9時30分から一般講演を2会場で、10時30分から学生賞審査を2会場で行いました。朝から夕方まで、どの会場も熱心な質疑応答が行われました。学生賞は修士課程・博士課程の2部に分けて、九州全域からお越しの8名の審査員によってそれぞれ厳正なる審査が行われました。お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。昼の休憩時間には、支部評議員会・役員会も開催されました。

13時10分から、本学会会長で北陸先端科学技術大学院大学教授の高木昌宏先生から支部会開催のご挨拶と「演繹、帰納、アブダクション（ロジカルシンキングの基礎）」と題した特別講演をいただきました。多くの我々日本人に馴染みのない「アブダクション（仮説形成）」という論理的思考法についてご紹介いただき、欧米の先端科学に追随する状況から日本が抜け出すカギは、独創的な「アブダクション」にあるとお考えを説かれ、学生および若手研究者へ熱いメッセージをいただきました。

17時30分より、恒例のミキサーを長崎大学水産学部大講義室にて開催いたしました。外山博英支部長による開会の挨拶の後、実行委員の仲山英樹先生より、長崎県内および九州圏内の酒造メーカーからご寄贈いただきました清酒、ビール、焼酎などについてご紹介がありました。その後、高木会長に乾杯の発声をいただきました。ミキサーには多数の大会参加者に出席いただきお酒と料理を楽しみながら、情報交換や交流が深められました。宴もたけなわの半ばに、学生表彰の授賞式が行われました。本年度の受賞者は6名で、博士課程の部は門岡千尋さん（鹿大院・連農）「白麹菌における推定メチルトランスフェラーゼLacAによるクエン酸生産制御機構の解析」の1名、修士課程の部は梅津昂明さん（九大院・シス生命）「NADPH利用酵素の非破壊活性測定のためのハイスループットシステムの構築」、和田夏美さん（九大院・農）「多成分バクテリオシントランスポーターEnkTの機能解析」、森日香里さん（九大院・生資環）「分裂酵母特有なアルカリストレス応答および遺伝子発現機構の解析」、大室早紀さん（九大院・工）「転写因子遺伝子導入によるニワトリ多能性幹細胞作製技術の開発」、有吉龍太郎さん（九大院・工）「微生物由来トランスグルタミナーゼ前駆体の新規活性化法の提案」の5名でした。外山支部長から各受賞者に賞状と記念品が贈呈され、受賞者より一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。受賞者の皆様の更なる飛躍をお祈りします。再び歓談を続けた後、最後に大会実行委員長の本一締めにより、ミキサーを盛況のうちに終えることができました。

2020年度は、別府大学の藤原教授を実行委員長として12月12日（土）に開催される予定です。多くの皆様のご参加を期待しております。（小田 達也）



会場の長崎大学文芸キャンパス



ミキサー会場にて外山支部長と学生賞受賞者の面々